

抜き
バ

身動きできない

満員電車で

ロリたちに

勃起を

勝手に

出されて

射精

させられた話



ハメット written by
Hammett

小さなおててでチンポを
おもちゃにされて
ヤバいのに気持ちイイ！
4人がかりで勃起を
容赦なくシコシコされて
盛大にぶっかけ射精！

まったく、
最高だぜ、
体験版

■キャラクター紹介

姫乃^{ひめの}

ナマイキざかりのイタズラっ子。

いつもパパを勃起させようと奮闘しているが未達成。

はじめて目にした生勃起にテンションMAX。



杏月^{あずき}

ひかえめながらも性知識が豊富なムッツリ娘。

おにいちゃんのエロ本をこっそり借りてオナニーするのが趣味。

日課はおにいちゃんを起こしがてらの朝勃ちチェック。



莉玖りく

男子に混ざって遊ぶことも多い元気っ子。

お風呂では弟のおちんちんをしょっちゅうおもちゃにしている。
勃起ちゃんぽとは初対面ゆえ恥ずかしさもありつつ、興味は津々。



凧なぎ

いつもぼやっとしている不思議ちゃん。

隙だらけなので悪いおとなにイタズラされることも多い。
勃起をさわらせられたり精液をかけられたりしたことも。



電車内に一歩踏み入れた瞬間、うしろから怒涛の勢い乗り込んできた人の波に流されて、オレはなすすべもなく車両の奥へ奥へと押されていった。

あつというまに隅まで追いやられ、連結部近くの三人がけシート近くまで来たところで、思いきり足を踏ん張ってなんとか立ち位置を確保する。そうでもしないと、そのまま人流に押されて貫通扉で圧死でもしかねない勢いだった。

それでもまだうしろからぎゅうぎゅうと押しやられるので、両手でそれぞれ吊り革をにぎりしめ、背を弓なりにそらせて必死に耐えた。押されるままにシートに座る乗客の頭上にも覆いかぶさってしまおうものなら、気まずいことこのうえない。

(ん……?)

と、そこでようやく、目のまえのシートに腰かける小さなシルエットに気がついた。きよとんとした顔でこちらを見上げていたのは、四人の少女だった。

身体が小さいので、三人がけのシートに四人で座っていても、ちっとも窮屈そうで

はない。

オレは背後からの絶え間ない圧力を受けて背中をそらした状態のままだったので、彼女たちに向かつて大きく腰を突き出すような格好になってしまっていた。

(いやいや、これ股間見せつけてみたいでマズいだろ……)

おまけにくたびれたジャージを穿いてきたもんだから、薄い生地 of 股間部がもっさりくつきりはつきりと盛りあがってしまったている。

数駅先の町に住む悪友宅へ行くだけだからと部屋着用のジャージのまま来てしまったのだが、こんなことならもう少しマシな服を選んでおくんだった。

しかしまあ、ほんの十分足らずの辛抱だ。

心のなかで念仏でも唱えているうちにすぐ着くだろう。——いや念仏なんか知らないけど。

ドアが閉まり、電車がゆっくりと動きだす。

揺れのおかげで背後からの圧力がちよつとだけやわらいで、さつきよりは楽に立っていられるようになった。とはいえ、それでも両手で吊り革をつかんでいないと体勢をキープできないというのは変わらない。

次の駅に着けば多少の乗り降りがあるだろうし、そのタイミングでうまく立て直せれば——そう思ったとき、電車がゆっくりと停止した。まだ発車して一分とたっていない。

「えー、ただいまとなりの駅で非常停止ボタンが押されたため、安全確認を行なっております。確認がとれしだいの発車となりますので、申し訳ありませんがそのまましばらくお待ちください。お客様にはお急ぎのところご迷惑をおかけしまして——」

……どうやらまだしばらくはこのままの姿勢を保たなくてはならないらしい。せめてもう少し楽にならないものかと、ぐっとケツで背後の客を押してみる。

しかし、より強い力で押し返されただけだった。

(くそっ、どんなヤツが……)

首だけねじまげてうしろを振り返ると、ふわっと甘い香りが鼻をくすぐった。

(やべっ……)

背後にいたのは制服を着た女子高生だった。

いや、背後だけじゃない。見渡してみれば、近くに立っている客はオレ以外、みんな女子高生だった。

まさか女性専用車両だったんじゃない、と焦ったが、遠くには男の姿が見えている。運悪くJKの集団に巻き込まれてしまったというだけのことらしい。

(しかし、まいったな……)

周囲を女子高生に囲まれているとなると、うかつに身体を動かすこともできやしない。意図せずちよつとぶつかっただけでも痴漢だなんだと騒がれたら、そんな事実はなかろうとも速攻アウトである。

緊張に身を固くしつ、意識をそらすつもりで視線をさまよわせていたら、眼下にちらつく肌色に焦点が定まった。

(おお……)

目のまえのシートに座っている女の子たちは、あらためて見ると大変にけしからん姿をしていた。

ポニーテールにした明るい髪の毛を樂しげに揺らす子の白いワンピースから伸びる、しなやかでまぶしい生脚。笑うたびに両脚をぱたぱた動かすので、太もものきわどいところまでちらちら見えてしまっている。

小麦色に日焼けしたボーイッシュな子は健康的に引き締まった脚をショートパンツ

から大胆に露出しているうえ、ノーブラらしくTシャツにはぼつちりとふたつの突起が浮かびあがっていて、無防備にもほどがある。

ひかえめな笑顔を見せるおとなしそうなおさげの子もまた、ブラジャーをつけていないらしい。汗っかきなのか、制服らしき白いブラウスの胸元が濡れて張りつき、肌とはあきらかに違う色がうっすらと透けてしまっている。

ぼんやりとみんなの話を聞いているぼさぼさ髪の子は、夏だというのに長そでにオーバーオールという重装備で、一見すると見逃してしまいがちだが、厚着でも発育のよさをうかがわせる胸とお尻のボリュームが想像をかきたててやまない。

どこかへ遊びに行った帰りなのか、みんなして手にファーストフード店の紙コップを持ち、ぷりぷりの唇でちゅうちゅうとストローをすすっている。

(いやいや、こんなの目の毒すぎるだろ。うっかり反応でもしちまったら……)

目をそらそうとしたとき、制服の子がなにかを足元に落としたらしく、座ったまま床に手を伸ばした。

(見えっ……!?)

ボタンのはずされた胸元の隙間から、ちらっとピンク色の小さなつぼみがのぞいて、

うっかり目が釘づけになる。

「あれ、どこいっちゃったんだろ」

右へ左へ身体を揺すり、ほんのりふくらんだ左右のちっばいのまんなかのくぼみまで見せつけられて、オレは目線を動かさなくなっていた。

「おっ、杏月^{あずき}、それじゃね？」

すぐ左に座るボーイッシュちゃんが指をさし、制服姿の杏月ちゃんがそこへ手を伸ばす。なお名前の漢字をなぜ知っているのかという点については、視認性と可読性を高めるためというメタ的な都合により華麗にスルーしてほしい。

「ほんとだあ、莉玖^{りく}ちゃん、ありがと〜」

杏月ちゃんが無事に落としものを拾い、顔を上げた。

顔を上げて、固まった。

(しまった……)

杏月ちゃんの目のまえにあったのは、オレの股間だった。

いつのまにか半勃ち状態になってさっきよりもはつきりと存在を主張するジャージ越しのチンポが、小さな顔のまんまえにあった。

じいつと数秒間、間近でオレの股間を見つめていた杏月ちゃんの頬が、ふいにへらつとゆるんだ。

ちらつとオレの顔を見上げ、またチンポに目を戻して、にいいつ、と笑顔になる。無邪気さなど微塵も感じられない、男の欲情をことさらに誘うような、年不相応な笑いだっただ。

思わぬ色香にあてられて、ひくん、とペニスが小さく動く。そのようすを見て、杏月ちゃんの笑みますます深くなつた。

「どしたん、あずっち」

莉玖ちゃんのさらに左、いちばん端に座っていた子が、ぴよこんとツインテールを揺らして杏月ちゃんの顔を覗き込む。

「あ」

そしてすぐ、杏月ちゃんが熱心に見つめているオレのチンポに気がついた。

「うわっ、うわうわっ」

にまにま笑いながら、莉玖ちゃんの太ももをぺちぺちと叩くツインテちゃん。

「なんだよ、姫乃^{ひめの}」

「見て見てほら」

いたずらっぽい笑みを浮かべて、姫乃ちゃんはオレの半勃起をつんつんとつつくような仕草で指さした。

「ん？ あっ……」

めんどくさそうに向けられた小麦色の顔が、とたんに恥ずかしそうに紅潮する。

「えっ、ちんこ、すご……」

おろおろと目を泳がせながらもしつかりと至近距離で見つめられて、分身がびくと跳ねる。

「わ、わ、わ……」

莉玖ちゃんはボーイッシュな見た目に似合わず、もじもじと内股になって右隣の杏月ちゃんにしがみついた。

「なに」

友だちの異変に気づいたのか、杏月ちゃんの右側から、ぼうつとしていた不思議ちゃんっぽい雰囲気の子がこつちを覗き込む。この子もすぐに勃起に気づいたらしく、眠たげだった目が大きく見開かれた。

「ぼっきしてる」

はつきりと口にされたたん、全身を緊張が駆け抜けた。

(まずいまずいまずい……ロリたちにはつきり勃起してるの認識されながらチンポ凝視されてる……騒がれたら人生終了なやつだぞコレ……)

焦りとは裏腹に、四人の少女が見守るなか、ぐん、ぐん、とペニスはますます硬度を増していつて、ついにはフル勃起状態にまで達してしまった。

ジャージもその下のトランクスも、古びて生地が薄くなつてしまっているせいでまったくおさえにはならず、勃起はますますぐまえへ伸びて四人の少女たちの眼前でこれでもかとばかり存在を主張している。

「ひめ、はじめて勃起見ちゃったあ♪」

ツインテ姫乃ちゃんがはしゃいだ声を出す。

「……………」

おさげの杏月ちゃんはぺろりと唇を舐めて、ただただじっとオレの勃起に見入っている。

「あ、あのさ、姫乃」

おずおずと小さく手を挙げて、ポーンとシユ莉玖ちゃんが姫乃ちゃんに顔を寄せる。

「ぼ、ぼっきって、その……」

「あれ？ 莉玖、知らない？」

「いや、聞いたことはあるかなーってくらいで」

「勃起ってのはねー」

姫乃ちゃんが得意そうに薄い胸をそらせて説明しようとしたところへ、

「ちんちんがおつききくなること」

不思議ちゃんが割って入った。

「あーっ、なんで風なまがゆっちゃうかなー！」

ぷんすこする姫乃ちゃんに、風ちゃんは真顔で首をかしげる。

「莉玖が知らないって言うから」

「けど姫乃はともかくさ、風もよく知ってたよね」

莉玖ちゃんは感心したようすで風ちゃんを見た。

「杏月に教えてもらった」

風ちゃんが言ったとたん、杏月ちゃんの顔がボンッと赤くなり、急にあたふたしは

じめる。

「あつ、ちがくて、あず、あの、おにいちゃんいるし」

「あー、おにいちゃんのエッチな本でも見たんでしょ」

「だつ、だつて！ あずでも見れるところに置いてあるから……」

ごによごによとことばを濁しつつ、杏月ちゃんは恥ずかしそうにうつむいた。そして目だけでまたオレの勃起を見つめてくる。

（この子はむつつりスケベなのか……まじめそうなくせして股間に悪すぎる）

杏月ちゃんの熱視線を受けて、フル勃起がびくんびくんと跳ねあがる。

目のまえで勃起の話題で盛りあがられながらそんなふうに見つめられていたら、おさまるものもおさまらない。

せめてナニの向きを変えて目立たなくするとか、少しでもごまかしたいところではあるのだが、吊り革から片手でも離そうものならうしろからの圧力でロリたちに向かつてダイブしてしまいかねない。

フル勃起させていきなり覆いかぶさりでもしたら、確実に実名報道されて社会的死亡を迎えるハメになってしまう。

いまだってロリたちに勃起を見せつけている格好ではあるものの、生理現象だし、モロにブツを見せてるわけでもないし、下手に動いて事態のさらなる深刻化を招くおそれがあるくらいなら、このままの状態にいるほうがまだマシというか、この場合は最善なのだろう。

「ひめ、お風呂でパパのちんちん勃起させようとしてるんだけどさー、ぜんぜんダメなんだよねー。さわろうとすると逃げられちゃうし」

姫乃ちゃんが身を乗り出してオレの勃起に顔を近寄せる。

前かがみになったせいでワンピースの胸元が肌から浮いて、ぺたんこな胸が丸見えになる。それでいて乳首だけはさつき見えた杏月ちゃんのものよりも育っていて、つんとかわいらしくとがっているのがなんともいやらしい。

(いやパパすげえな。こんな子と風呂入ったらそれだけでフル勃起だわ)

「ね、ねえ、杏月さあ、なんかさきっぱからもれてない？」

あいかわらず内ももをしきりにこすり合わせながら、莉玖ちゃんが杏月ちゃんにもたれかかる。

「な、なんであずに聞くの？」

「だってくわしそうじゃん」

「だからちがくて——」

「がまんじる」

凧ちゃんがまた割って入った。

「がまんじる？」

「ぼつきしてこーふんすると出るんだって」

きよとんとする莉玖ちゃんに、凧ちゃんは淡々と説明する。

「ちんちんから？ おしっこじゃなくて？」

「ちがう。どっちかっていうとせいえき寄り」

「せいえき？」

「しやせいすると出る白いやつ」

莉玖ちゃんと凧ちゃんに挟まれて身を縮こまらせながら、杏月ちゃんは気の毒なほど真っ赤になっている。

「じゃーさじゃーさ、このまま待ってれば、せいえき？ っで出るのかな？」

「わかんない。見えないし」

「風ちゃんはその言ってオレの顔をまっすぐに見上げた。」

つられたように姫乃ちゃんが、莉玖ちゃんが、そして最後に杏月ちゃんも、上目遣いでひかえめに見つめてくる。

先走りを先端ににじませたフル勃起越しにロリっ子四人の視線をいつせいに受けて、オレはあまりの情景に気が遠くなりそうだった。

なにか期待するような面持ちの四人から目を離せずにいると、やがて姫乃ちゃんの顔がぼっと明るくなった。

「そうだ！ だったらさー……」

悪い予感しかない。

「えいっ♪」

ツインテールが腰のあたりで踊ったかと思うと突然、下半身が場違いな開放感に包まれた。

えっと思っただけ視線を落とすと、引き下ろされたジャージとトランクスから解き放たれた赤黒い勃起が、いたいけな少女四人が見守るなか、勢いよく飛び出した反動で大きく上下に跳ねていた。

つづきは製品版で
お楽しみください

■サークル「破滅乱淫オーガズム」作品一覧

*2024年8月現在

◎既刊

- ① 委員長・静井莉子の露出自慰日記（優等生のカゲキないキぬき）
- ② ロリのふりして脱法露出！ 合法ロリでも外で脱いだら違法です!!
- ③ 露出体験告白1 イキすぎた公開絶頂
- ④ 着衣女性×露出男性 勃起見せつけ体験集1
- ⑤ 時間停止能力を手に入れて露出オナニーを満喫してたら人生終了しちゃった話
- ⑥ 露出体験告白2 痴女たちの全裸淫戯（全裸になりたいわたしたち 露出体験告白2）改題）
- ⑦ 身動きできない満員電車でロリたちに勃起を勝手に出されて射精させられた話
- ⑧ イメージビデオに出演したら挿入がないだけでほぼAVみたいな撮影だった話
- ⑨ 着衣女性×射精男性 勃起見せつけ体験集2

◎近刊

＊男は誰もがチンポの虜 兜合わせ体験集

＊怪淫譚 心霊絶頂体験集

＊露出体験告白3 公然のイキ恥さらし

＊娘がアダルトライブチャットをしていたのでエロirikエストをしまくった話

(近刊の発売順は変更になる場合があります)

★各電子書籍ストア、ダウンロード販売サイトにて発売中!

(ストア、サイトによっては規約の関係上、一部扱いのない作品があります)